

2018年度江別市大学連携調査研究事業補助金

高齢化に伴う地域における廃棄物処理の課題発掘と
解決のための社会実験

○
報 告 書

2019年3月

○
酪農学園大学 環境共生学類
資源再利用学研究室

押谷 一

目 次

	page
1. 研究目的	1
2. ふれあい収集とは	1
3. 本調査研究概要	1
3-1 実施した調査	2
3-2 調査研究内容	2
3-2-1 ヒアリング等調査	2
3-2-2 江別市の住民に対するアンケート調査	5
3-2-3 ふれあい収集の社会実験	6
4. アンケート結果概要	6
5. 社会実験結果	8
6. まとめ	11
謝辞	
参考資料	
別添-1 アンケート依頼状（野幌代々木町自治会向け）	
別添-2 アンケート票（野幌代々木町自治会向け）	
別添-3 社会実験 ご協力のお願い	
別添-4 社会実験 回収報告	

1. 研究目的

高齢化の進展によって廃棄物処理の新たな課題が出現することが予想される。本研究では、地域における廃棄物処理の課題のなかで高齢者や身体に障害のある一人暮らし、あるいは家族全員がなんらかの理由によってごみ出しが困難な家庭に対していくつかの自治体で行われている戸別収集（ふれあい収集などと呼ばれている）を冬期間、積雪の多い江別で導入することの課題などについて検討するために実施した。

とくに戸建て住宅とエレベータが設置されていない中層の集合住宅に住む住民のごみ出しの違いなどを明らかにすることを目的として市内2か所の自治会の協力を得て住民に対するアンケート及び戸別収集の社会実験を行った。

さらに市民による「共助」の可能性等についても検討することとした。

2. ふれあい収集とは

原則としてごみ収集所（ごみステーション）から処理施設まで市の直営あるいは委託業者によって収集・運搬することとしている市町村では、自宅からごみ収集所までは、それぞれ個人が運搬することとしている。

高齢化社会の到来や核家族化の進行によって、ごみを収集所まで運ぶことが困難な市民が増えていることから、市民サービスの一環として、ごみを自分で出すことができない方々を対象に自宅に直接、ごみを収集にいくサービスが「ふれあい収集」と呼ばれ、実施している自治体がある。

3. 本調査研究概要

江別市の廃棄物処理は、ステーション方式によって燃やせるごみ、燃やせないごみ、びん、缶、ペットボトルなどの資源物を分別回収し、環境クリーンセンターにおける焼却およびリサイクルセンターでの資源回収が中心となって構成されている。指定袋による有料化も導入され、比較的順調に事業が進められている。

しかしながら、江別市においても、他の自治体と同じように今後、高齢化が進むことによって各自宅からステーションまでのごみ出しをはじめ、介護に伴う医療系ごみや紙オムツ等の排出量が増大するなど、新たな課題も出現することが予想される。

国立環境研究所ではこうした高齢者などのごみ収集を喫緊の研究課題の一つとしている。

本研究では、江別市内の大麻地区、野幌地区のなかからそれぞれ特有の地域特性を有する自治会を選出し、地域における廃棄物処理、とくにふれあい収集の導入の可能性についてアンケートやヒアリング調査によって課題を発掘することを目的として実施した。

調査研究のフレームは図-1に示すとおりである。

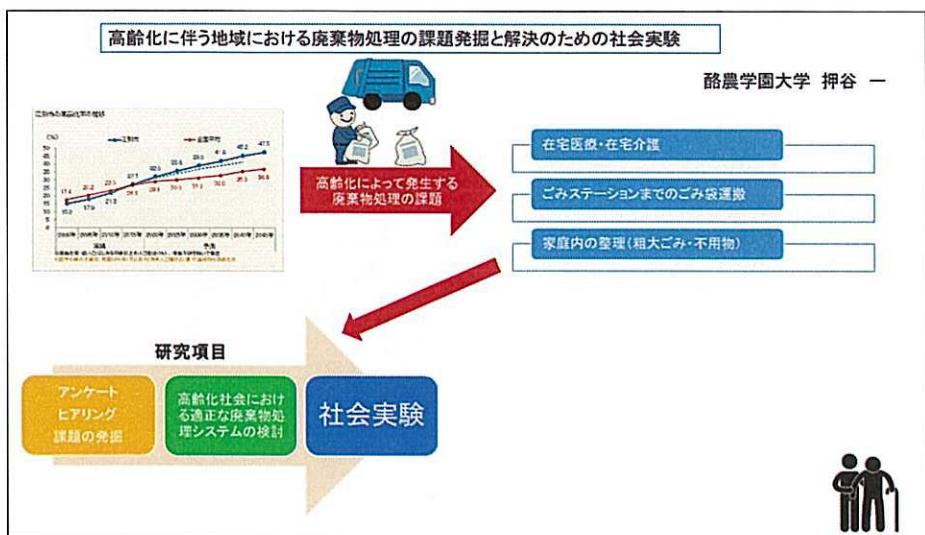


図-1 調査研究のフレーム

3-1 実施した調査

調査研究は次のとおり実施した。

(1) ヒアリング等調査

- ① ふれあい収集を実施している先行自治体における事例調査

北海道・旭川市

埼玉県・所沢市

神奈川県・横浜市

- ② 国立環境研究所へのヒアリング

- ③ 関係企業へのヒアリング

(2) 江別市の住民に対するアンケート調査

(3) ふれあい収集の社会実験

3-2 調査研究内容

調査研究の内容は次の通りである。

3-2-1 ヒアリング等調査

① 先行事例調査

a. 旭川市

北海道・旭川市では、この取り組みを早い時期から実施している。ふれあい収集の対象となる住民の区分や、申し込み方法などについてヒアリング調査を行った。

その概要は、以下の通りである。

調査日：2018年9月21日（金）

面談者：環境部クリーンセンター主幹、内田和博氏

環境部ごみ相談係係長 森崎明美氏、同 奥山 努氏、宮森修平氏

ふれあい収集の対象は、次の事項に該当する方としている。

- (1)介護保険被険者証の要介護状態区分が、要支援2・要介護1から要介護5に認定されているひとり暮らしで、介助・介護を必要とする生活状況で、自らステーションまでごみを排出することができなく、他の者の協力を得ることができない方。
- (2)身体障害者手帳の交付を受け、障害福祉サービス受給者証の障害支援区分認定を受けているひとり暮らしで、介助・介護を必要とする生活状況で、自らステーションまでごみを排出することができなく、他の者の協力を得ことができない方。
- (補足) 障害名・障害等級・障害福祉サービス受給者証の内容等による。
- (3)同居者がいるときは、同居者の方も上記(1)と(2)に概ね準じる場合は対象となる。

サービスを受ける希望者は次の手順で申し込むこととしている。

- (1)「ふれあい収集」の認定基準に該当する方で、介護保険被保険証をお持ちの方は、地域包括支援センター・居宅介護支援事業所の担当ケアマネージャーに相談する。
- (2)「ふれあい収集」の認定基準に該当する方で、身体障害者手帳の交付を受け障害福祉サービス受給者証をお持ちの方は、訪問介護事業所のサービス提供責任者に相談する。
- (3)「ふれあい収集」の認定基準に該当する方で、本人が直接申請される場合は、「ふれあい収集」ホームページの記載内容を確認の上、申請書を提出する。
- (4)各事業所が本人及び親族から、「ふれあい収集」の申し込みがあった場合には、申請書を提出する。なお、同居者がいるときは同居者の分も提出する。

申請書受付後、申請受付通知書で申請者に通知される、受理後に書類審査を行い、面談調査を行う対象者を決定する。面談調査を行う対象者として決定された後、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所等と連絡調整を図り、対象者宅の訪問日時等を確認し、ケアマネージャー、ヘルパー等と市の「ふれあい収集」担当者が対象者の現状調査を実施する。(クリーンセンターに設置された)認定審査委員会において、面談調査した結果に基づいて審査し、認定の可否が決定される。

実施に際し、特に次のことについて留意することが必要であるとの指摘を受けた。

- ・行政のなかで、廃棄物処理を担当する部署が、要介護認定など受けた市民へのサービスを考えるのかといった指摘もある。また、安否確認（見守り）といった機能ももたせるといわゆる福祉政策に絡むのではないかといった懸念がある。
- ・個人情報の扱いは慎重になる必要がある。
- ・各戸収集なので、場合によってはドアの内側に入ることもあり、委託業者に任せられない場合には直営（市の職員）が廻る必要がある。

- ・返事が無く、家の中に入ったら亡くなっていたこともある、その際の職員の心のケアが必要になることもある。
- b. 埼玉県・所沢市、神奈川県横浜市にもヒアリング調査を行った。

調査日：2018年8月1日（水）

面談者：横浜市資源循環局家庭系対策部業務課計画係 松田優人氏

所沢市環境クリーン部資源循環推進課 主査 石井宏和氏

*横浜市、所沢市の実施しているふれあい収集の背景、実施内容などに関する点は、旭川市とほぼ同一の内容であるので省略する。

② 国立環境研究所へのヒアリング調査

調査日：2019年3月22日（金）

面談者：資源循環・廃棄物研究センター 循環型社会システム研究室

主任研究員 多島 良氏

多島主任研究員ら国立環境研究所の実施した「高齢者を対象としたごみ出し支援の取組みに関するアンケート調査（2015年）」及び廃棄物資源循環学会に掲載された「共助と公助による高齢者のごみ出し支援制度」をもとに、いわゆるふれあい収集の課題等について意見交換を行った。

ごみを収集所まで運ぶことを他人に手助けして欲しくないという意見の背景には、ごみ他人にみられたくないという気持ちと、遠慮があるように思われるとのことであった。行政の職員が行ってくれれば良いということもあるようである。多島氏らの実施した調査では、紙オムツが比較的少なく想定外であったが、これもこうしたことが原因となっている可能性がある。また、ごみの排出量を年代別にみると、明確ではないが、65歳未満や75歳以上に較べて、65歳～74歳の家庭では厨芥などが若干増えており、自宅で調理している可能性があるとのことであった。また、ふれあい収集の便益については、別居している親の見守り効果も期待されているようである。仮想市場法を用いて有料となった場合の支払い意思額をみるとおよそ月額2,000円という結果がある。

今後、自治体の直営（職員が直接、収集すること）が難しい場合には自治会やシルバー人材センターの活用が課題となるであろうかという意見もあった。しかし、環境省の調査によれば、全国の自治体の20%程度しか実施しておらず、2019年度に環境省が制度ガイドラインを実施すようである。しかし、一部の住民に対する戸別収集となることから行政サービスの公平性などが課題となる可能性もある。

収集にあたっている業者が地域（コミュニティ）のなかに入っていくことに対することによって、作業員の「やりがい感」を高める効果もある。

③ 関係企業へのヒアリング調査

調査日：2019年3月22日（金）

面談者：荏原環境プラント株式会社 啓発推進課 山口 茂子氏

同社は、自治体の廃棄物処理施設の建設を行うとともに、維持管理を自治体から委託を受ける事業を実施している。今後、廃棄物処理施設が、コミュニティにどのような貢献ができるかを検討する際に、本調査研究で実施しているような住民サービスの可能性や問題点について意見交換を行った。

3-2-2 江別市の住民に対するアンケート調査

江別市内の次の2つの自治会に協力いただき実施した。2つの自治会を選定した理由は次の通りである。

○ 大麻宮町団地自治会については、高度経済成長期に建設された5階建ての中層集合住宅であるが、エレベータが設置されていないことから高齢者や障害をもっている方々にとっては、ごみ出しが困難になることが予想されることから対象地域とした。なお、賃貸住宅であることから、管理業者であるURコミュニティ（UR都市機構業務受託者）北海道住まいセンターお客様相談課にも実施にあたって事業の概要、アンケート内容、社会実験の方法などを説明し、アンケート調査および社会実験の許可を得て、自治会長氏を紹介いただいた。その後、それぞれの自治会の会長はじめ役員氏にお集まりいただき、趣旨を説明して実施の快諾を得た。

○ 野幌代々木町自治会は、戸建ての住宅のある地域であること、住民自らごみステーションのボックス（箱型）を自作するなど、ごみ問題に関心が高い地域であることから選定した。とくに野幌代々木町自治会の事務局長は酪農学園大学の元教授であり、当研究室との繋がりも深く前述のごみステーションのボックス作りにも関係している。

○ アンケート調査の実施の概要は次の通り。

① 大麻宮町団地自治会

UR団地（5階建て、エレベータ無） 15棟 自治会の班長を経由して各戸にアンケート票を配布し、集会場にボックスを置いて回収した。

配布数：350戸

アンケート回答：98通（回収率：28.0%）

② 野幌代々木町自治会（戸建て住宅）

班長を通じて各戸に配布し、記入後はポストに投函していただいた。

配布数：135戸（186戸のうち空家等を除いた）

アンケート回収：95通（回収率：70.0%）

3-2-3 ふれあい収集の社会実験

それぞれの自治会のある地区は毎週火曜日と金曜日に可燃ごみ（燃やせるごみ）を指定袋に入れてステーション方式で回収している。社会実験では、協力いただいた家庭に指定袋40リットルを配布して、燃やせるごみを入れておいていただき、それを戸別収集することとした。対象はアンケートの際に、戸別収集実験に協力いただけることが可能であると、住所・氏名などの個人情報を提供いただいた家庭とした。

社会実験の対象として参加いただける家庭

大麻宮町団地自治会 20戸

1階：8戸、2階：4戸、3階：4戸、4階：2戸、5階：2戸

野幌代々木町自治会 11戸

各自宅からの燃やせるごみの回収は、廃棄物収集・運搬許可業者（江別清掃株式会社）に委託し、2月の2週間、合計4回行った。

4. アンケート調査結果

① 年齢別回答者

表-1 年齢別回答者

(%)

年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上
野幌代々木町	1.1	2.1	5.3	8.5	26.6	35.1	21.3	0.0
大麻宮町団地	0.0	3.2	5.3	13.8	30.9	35.1	11.7	0.0

野幌代々木町：n=94 大麻宮町団地：n=94

② 同居者の数

表-2 各戸の同居者の数

(%)

	自分だけ	2人	3人以上
野幌代々木町	12.8	56.4	30.9
大麻宮町団地	62.1	28.4	9.5

野幌代々木町：n=94 大麻宮町団地：n=95

③ ごみ出しに対するお手伝いの必要性について

ふれあい収集のように自宅からステーションまで運ぶことを「手伝ってもらいたいか」という質問に対しては回答数が少なかったが、野幌代々木町で1件、大麻宮町団地で2件であった。その一方、「手伝ってもらいたくない」という質問に対しては、それぞれ3

件、4件となっていた。次に手伝ってもらいたくない理由については、「他人にごみをみられたくない」と回答はそれぞれ1件であったが、「他人に迷惑をかけたくない」という回答が、それぞれ5件、6件あった。回答数が少なく明確にはわからないが、多くの住民にとってごみ処理（ステーションまでの運搬）は、自分の仕事であり、他人には迷惑をかけたくないという心理があるものと推測される。

なお、ステーションまで「持つていけない」という回答は1件であったが、「ときどき持つていけない」という回答はそれぞれ3件あった。

「持つていけない」理由としては、「雪道が凍っている」こと、「重たい」こと、「手で持つことが大変」という回答があった。

④ ふれあい収集が導入された場合の利用について

お住まいの地域で「ふれあい」収集があったら「利用するか」という質問に対しては次のような結果となった。アンケートで「要支援」「要介護」を受けているか聞いているがほとんど回答がなく、クロス集計では明確ではないが「利用する」という回答があったことは着目しておきたい。

表-3 ふれあい収集の利用の意向

(%)

	利用する	利用しない	わからない
野幌代々木町	7.9	69.7	22.5
大麻宮町団地	13.6	71.6	14.8

野幌代々木町：n=89 大麻宮町団地：n=88

⑤ ふれあい収集の料金

ふれあい収集は先行事例調査によれば、要支援、要介護などの認定を受けている一人暮らし、あるいは家族全員が認定を受けていることが対象となる条件となっているが、行政の公平性の問題もあり、有料とすることも検討する必要がある。ヘルパーの生活支援、あるいはシルバー人材センターの活用や自治会・町内会でのサポートにおいても有料化ということを検討する必要がある。一回あたりの支払意思額を聞いたところ「100円未満」との回答は野幌代々木町が2件、大麻宮町団地では7件であった。また、100円との回答はそれぞれ3件であった。

⑥ 大麻宮町団地の各階ごとの回答者

大麻宮町団地の回答者の住んでおられる階は次の通りであった。

表-4 大麻宮町団地のアンケート回答者のお住まいのある階の割合
(%)

1階	2階	3階	4階	5階
27.4	18.9	25.3	15.8	12.6

アンケートでは、項目によっては回答数がきわめて少なかったことから、ふれあい収集の潜在的ニーズなどについては十分に確認することはできなかった。

しかしながら、今後さらに高齢化が進むことから、事前に制度のあり方を検討することは必要であることは確認できた。

5. 社会実験結果

アンケートを回答いただく際に、ごみを自宅から直接回収する社会実験を行うので協力いただける場合には、氏名、住所を記入いただくこととした。その結果、野幌代々木町では11戸、大麻宮町団地では20戸のお宅が協力いただけることとなった。

いずれの地区も「燃やせるごみ」の収集は火曜日と金曜日であることから、2月8日(金)、12日(火)、15日(金)、19日(火)の4日間実施することとした。

協力いただけるお宅には、江別市指定のごみ袋(40リットル)と別添の手順書および謝礼として1,000円分のクオカードを同封して直接、自宅宛に郵送した。

回収は、午前8時から10時の間に在宅するようお願いし、ドアの呼び鈴を押して、空けて頂いたら、ごみ袋を回収することとした。作業は2名が担当し、回収車は1台で実施した。作業員は「酪農学園大学」の腕章を着用し、回収の際には「酪農学園大学の回収実験」である旨を伝えるようにした。回収したごみ袋は、直接、江別市環境クリーンセンターにおいて計量して処理した。



写真-1 回収実験使用車両



写真-2 野幌代々木町回収風景



写真-3 大麻宮町団回収風景



写真-4 大麻宮町団地ステーション

① 社会実験結果の概要

収集したごみの量、容量、作業時間等については次の通りであった。

表-5 概要

収集日	重量 (kg)	容量 (m³)	比重	野幌代々木町		大麻宮町団地		所要時間	備考
				開始時刻	終了時刻	開始時刻	終了時刻		
2月8日	70	0.9	0.078	8:00	8:40	9:00	9:30	1:30	
2月12日	70	0.8	0.088	8:00	8:40	9:02	9:50	1:50	大麻団地、排雪のため遅れ
2月15日	60	0.8	0.075	8:00	8:30	8:38	9:10	1:10	
2月19日	70	1.1	0.064	8:00	8:20	8:38	9:20	1:20	

② 「見守り」に関する実験

訪問したときの呼び鈴を押すが、一回目で応答が無い場合には、1分程度待ってもう一度呼び鈴を押すこととし、それでも応答が無い場合は「留守」と判断した。

仮にふれあい収集の際に一人暮らしなどの住民に対する「見守り」を加える場合には、このように二回以上、呼び鈴を押しても応答が無かったり、ポストに数日前の新聞などが取り残されている場合には関係部門に連絡する仕組みを設ける必要がある。

表-6 呼び鈴の回数

(回)

	2月8日(金)			2月12日(火)			2月15日(金)			2月19日(火)		
	呼び鈴1回	呼び鈴2回	応答なし	呼び鈴1回	呼び鈴2回	応答なし	呼び鈴1回	呼び鈴2回	応答なし	呼び鈴1回	呼び鈴2回	応答なし
野幌代々木町	6	3	2	9	1	1	9	0	1	8	1	1
大麻宮町団地	15	3	4	13	1	6	14	0	4	13	1	4

③ 回収した際のごみ袋の中身の量および数

回収したごみ袋の内容は次の通りであった。なお、一軒で複数の袋（いずれも40リットル入りの袋が満杯）が2回出しているお宅があった。これは、この際に不用物を整理したものと思われる。

表-7 ゴミ袋の中身の量及び個数

(個数)

	2月8日(金)			2月12日(火)			2月15日(金)			2月19日(火)		
	満杯	半分	4分の1	満杯	半分	4分の1	満杯	半分	4分の1	満杯	半分	4分の1
野幌代々木町	9	2	2	4	3	1	1	5	4	4	3	2
大麻宮町団地	3	2	3	4	4	3	1	8	3	2	2	9

④ 回収委託業者からの感想・意見

分別に関しては、市のルールが守られており、良好で処理困難物の混入はなかった。

冬期間のために道幅が狭く、排雪車両や灯油給油車、ディーサービス送迎車などに留意する必要がある。特に排雪作業がある場合には、予め設定していた巡回ルートが変更になることが予想される。(例えば、表-5に示すように2月12日の作業時間が長かったのはそのため)

初回の回収の際に、社会実験の趣旨を十分に理解していない住民の方もおられたので、その場で説明することもあった。

大麻宮町団地では、各号棟の出入口からすぐのところにゴミステーションがある場合には、自分で出すのでサービスは受けないという住民もおられた。後半では、趣旨も理解され事前に準備されて頂けるようになった。燃やせないごみの収集(週1回)は行わないのかという質問が数件あった。

1回目の収集では、地図と名簿で、住居を探していたため時間がかかったため、2回目以降は、ルート地図を作成することによって効率的な収集が可能になった。

「酪農学園大学」あるいは「江別清掃」の社会実験であるといつても要領を得ない場合があり「ごみの戸別収集である」旨を伝えるようにしたところスムーズに協力いただけたことになった。

今回、作業担当者が団地の4、5階まで歩いて上り下りしたが、お住まいの方が高齢あるいは足腰が不自由な場合には、ごみの運搬が困難になることが予想されることを感じた。

今回、行ったような戸別収集は、コスト、人員、車両の確保などのデメリットはあるが、ごみ出しルールが徹底できること、ごみの減量・減容効果が期待できる。

道幅の問題もあり。従来のパッカー車では対応は難しいが、小型の車両の場合には処理施設まで、複数回往復する必要があるため作業時間が問題となる可能性がある。

住民からは感謝の言葉をかけていただきたり、お手紙をいただいた。このように住民と直接触れ合うことで廃棄物処理に従事する作業員にとって、モティベーションを上げる効果も期待できる。

6. まとめ

急速に高齢化が進むなか、地域社会には多くの課題がある。今回は、高齢者などの廃棄物の収集困難者に対する戸別収集の導入の可能性や問題点を把握するため、江別市内の大麻宮町団地自治会ならびに野幌代々木町自治会のご協力を得て、アンケート調査および回収の社会実験を行った。環境省も2019年4月以降、ごみ出し支援のモデル事業を行い、支援のあり方を検討し、2020年3月まだに課題、解決策を検証してガイドラインを策定することとしている。

ごみ問題は個人情報と密接に関係するため、住民の方々の実際の問題点や意見を聴取することは非常に困難である。

今回の調査では、自治会のご協力を得て実施したが、個人情報の保全にはできるだけ注意を払った。そのために、アンケートの回収率や回答、社会実験に参加いただける方が少なかった。しかしながら、先行的にごみ出し困難者に対する戸別収集（「ふれあい収集」と呼ばれる）自治体や、調査研究を行っている国立環境研究所のご意見や経験をヒアリングすることによって何らかの制度の導入が必要であることを強く感じた。

核家族化、地域社会のつながりより個を優先する社会風潮のなかで地域社会（コミュニティ）」の崩壊が指摘されている。そのため、ごみ出し困難者に対して地域住民が「共助」によって手助けするのは困難なのかも知れない。

行政は、すべての人びとに対する公平なサービスを提供することが求められるが、高齢化や、一人暮らしの住民が増加するなかで、廃棄物処理においても福祉政策と連携を取ることも重要である。とりわけ、急病で倒れた場合や孤独死をいち早く発見して対応するためには、日常的に発生する「ごみ」を通じて「見守り」を行うことは効果があると思われる。

一方、ごみ出しが困難になると、自宅にごみが滞留して、いわゆる「ごみ屋敷」となり地域社会の新たな問題となることも指摘しておきたい。

この調査結果によって、江別市がさらに高齢者や身体に不自由を抱える人びとにとって住みやすい街になることを期待したい。

謝辞

江別市より研究費をいただき、高齢者等に対する戸別収集に関する調査研究を実施できたことを感謝申し上げます。

旭川市環境部ごみ相談係係長 森崎明美氏はじめ職員のみなさま、横浜市資源循環局家庭系対策部業務課計画係 松田優人氏、所沢市環境クリーン部資源循環推進課 主査 石井宏和氏、国立環境研究所多島良主任研究員、荏原環境プラント株式会社山口茂子氏には貴重な情報をいただくとともに有益な意見交換を行うことが出来ました、感謝申し上げます。

江別清掃株式会社山田課長、澤田様、極寒のなか戸別収集いただきありがとうございました。

アンケート調査、社会実験にご協力いただいた野幌代々木町自治会ならびに大麻宮町団地自治会のみなさまにも厚く御礼申し上げます。

参考資料

国立環境研究所「高齢者を対象としたごみ出し支援の取組みに関するアンケート調査結果報告」(2015年)

小島英子、et.al「共助と公助による高齢者のごみ出し支援制度」(2015) 廃棄物資源循環学会論文誌、Vol.26

大迫政浩「高齢化社会とごみ問題」国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センターオンラインマガジン 2007年4月2日号

読売新聞「高齢者ゴミ出し支援」2019年3月18日(朝刊)

別添-1 アンケート依頼状（野幌代々木町自治会向け）

2018（平成 30）年 12 月

アンケート調査ご協力のお願い

「高齢化に伴う地域における廃棄物処理の課題発掘と解決のための社会実験」

日頃より大変お世話になっております。

酪農学園大学の資源再利用学研究室では江別市より「大学連携調査研究事業補助金」をいただいて高齢化に伴う新たな廃棄物（ごみ）問題について調査研究を行っております。

この研究では江別市では「ごみ」を分別し、各自で決められた曜日に「ごみステーション」まで持っていくこととなっていますがご高齢になり、あるいは身体に障害があり運ぶことが困難になる場合に、ごみを排出する際に個別に収集して、ごみステーションまで運ぶサービスを提供できないか検討するものです。その一環として野幌代々木町自治会様にご協力いただき、アンケート調査を実施することとしました。

このアンケートには回答いただいた方の氏名など個人情報を記入いただく必要はありません。また、このアンケートは調査研究のためだけに使用し、他の目的に用いることは絶対にありませんのでご安心下さい。

記入いただいた用紙は、封筒に入れて 12 月 28 日（金曜日）までに投函いただきますようお願いいたします。

また、それぞれのお宅から燃やせるごみを回収する社会実験を二週間（4 回程度）実施する予定です。ご協力いただける方は、氏名、ご住所をご記入下さい。

ご協力いただく方には後日、詳細をご説明いたしますが、それぞれのお宅で分別されたごみを決められた時間にお宅を訪問する業者に渡していただく簡単なものです。

応募者多数の場合は、調整いたしますので予めご了解下さい。

以上

■アンケート実施担当者■

酪農学園大学環境共生学類

資源再利用学研究室押谷（おしたに）

江別市文京台緑町 582 番地

電話・ファックス 011-388-4837(直通)

別添-2 アンケート票（野幌代々木町自治会向け）

（2018年度江別市大学連携調査研究事業）

高齢化に伴う地域における廃棄物処理の課題発掘と解決のためのアンケート調査

■実施主体：

酪農学園大学 資源再利用学（押谷）研究室

江別市文京台緑町 582 番地

電話 011-3884837（直通）

■ご協力：

野幌代々木町自治会

このアンケートは、高齢者、身体に障害をお持ちの方のごみ処理のサービスのあり方を検討するため実施します。他の目的には絶対に使いませんのでご協力を願いいたします。

それぞれの質問で、ふさわしい□に✓印をつけて下さい

1. あなたはおいくつですか？

20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90歳以上

2. あなたの住宅は何人で暮らしていますか。

自分だけ 2人 3人以上

3. あなたのお住まいの形状をお知らせください。

戸建て（1階建て） 戸建て（2階建て） 集合住宅

4. あなたは次の認定を受けていますか。

要支援1 要支援2

要介護1 要介護2 要介護3 要介護4 要介護5

5. あなたはご自分で、ごみの分別ができますか。

できる できない わからない

6. 前の質問で「できない」と答えた方にお聞きします。あなたはごみの分別をヘルパーに手伝ってもらいたいですか。

手伝ってもらいたい 手伝ってもらいたくない わからない

7. 前の質問で「手伝ってもらいたくない」と答えた方にお聞きします。それはなぜですか。

- ごみを他人にみられたくない ごみを他人に触られたくない
手間をかけたくない

8. あなたはご自身でごみを集積場（ステーション）まで持つていけますか。
持つていける ときどき持つていけない 持つていけない

9. 前の質問で「持つていけない」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか。
(いくつでも、チェック「✓」してください。)
階段の上り下りが大変 重たくて大変 雪道が凍っていて大変
手で持つことが大変 とくに問題はない

10. ごみを運ぶ有料のサービスがあつたら利用しますか。
利用する 利用しない わからない

11. 前の質問で「利用する」と答えた方にお聞きします。1回いくらだったら利用しますか。

100円未満／回 100円／回 100円以上／回 (具体的に：) 円／回

*週二回、二週間程度、ご家庭で分別されたごみを自宅から集積場（ステーション）まで運搬する社会実験を行うことを検討しています。実験は、それぞれのお宅で分別されたごみを、指定された日時に訪問する業者に渡していただく簡単なものです。

ご協力いただける方は、氏名・号棟・部屋番号をご記入ください。

ご協力いただく方には改めて内容をご説明します。なお、応募多数の場合は調整させていただきますので予めご了解下さい。

ご氏名：

ご住所：江別市

(よろしければ電話番号をお知らせください：)
ご協力ありがとうございました。

ご記入いただいた用紙は、封筒に入れて 12 月 28 日（金）までにポストに投函していただくようお願いいたします。

別添-3 社会実験 ご協力のお願い

2019年1月30日

ごみの戸別回収に係る社会実験

ご協力いただける皆様

「高齢化に伴う地域における廃棄物処理の課題発掘と解決のための社会実験」

(江別市補助事業)におけるご協力のお願い

拝啓 寒さ厳しき折、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、このたびは社会実験にご協力いただくことを快諾いただきありがとうございます。

皆様にご協力いただくことについて下記の通り、ご連絡申し上げます。

社会実験の手順は以下の通りです。

- ① ご家庭で排出される「燃やせるごみ」を同封した江別市の指定ごみ袋に入れて
それぞれのご家庭で保管して下さい。
- ② 保管しているごみ袋を次の日程で、作業員がそれぞれのお宅に伺って回収します。
2月8日（金）午前8時から10時の間に回収に伺います。
2月12日（火）午前8時から10時の間に回収に伺います。
2月15日（金）午前8時から10時の間に回収に伺います。
2月19日（火）午前8時から10時の間に回収に伺います。
19日で社会実験は終了となります。以降は従前通り各自で対応をお願いいたします。
- ③ 当日は玄関の呼び鈴を鳴らしますので、ドアを開けてごみ袋をお渡し下さい。
回収員は玄関先でごみ袋を受け取ります。ご自宅の中には入りません。
回収員は、江別清掃株式会社の社員ですが腕に「酪農学園」の青い腕章をつけています。
- ④ ご不在の場合は、次回の実験実施日まで保管いただくか、各自、決められた集積場
までお持ち下さい。

*残ったごみ袋は、決められた用途でそれぞれお使い下さい。

*社会実験にご協力いただいたお礼として、クオカードを同封いたしました。コンビニ
エンス・ストア等でご利用下さい。

*ご不明のことなどについては下記の問い合わせ先にお願いいたします。

敬具

◆問い合わせ先（社会実験実施者）

酪農学園大学 資源再利用学研究室

押谷（おしたに）、教授

電話・ファックス

011—388—4837（直通）

別添-4 社会実験 回収報告

「高齢化に伴う地域における廃棄物処理の課題発掘と解決のための社会実験」

回 収 報 告

回収番号			
作業担当者			
回収日時	月 日 () 時 分		
回収状況報告			
呼び鈴： <input type="checkbox"/> 1回目で対応・ <input type="checkbox"/> 2回目で対応・ <input type="checkbox"/> 応答なし 1回目で応答がない場合、1分後に再度、呼び鈴を押す、2分間待っても応答が無い場合は回収しない			
ごみ量	<input type="checkbox"/> 40リットル入りの袋 <input type="checkbox"/> 満杯・ <input type="checkbox"/> 半分程度・ <input type="checkbox"/> 4分の1以下 <input type="checkbox"/> 応答があったが、「出すものはない」と言われた		
分別状況	<input type="checkbox"/> 指定袋ではなかった <input type="checkbox"/> 分別されていない <input type="checkbox"/> その他 ()		
回収袋数	(前回の未回収分も含めて) 袋		
応答者の様子で気が付いたこと		<input type="checkbox"/> 歩くのが辛そう <input type="checkbox"/> 具合(体調)が悪そう その他 () 会話があれば、その内容 (簡単に声掛けする：体調の様子、天候など)	
特記事項			

酪農学園大学 資源再利用学研究室
江別清掃株式会社